

親の介護と仕事の両立支援*

東京国際大学
上枝朱美

2015 年 4 月

要旨

介護保険が始まって 15 年が経過したが、依然介護を理由とした離職者は多い。また今後親の介護のために離職する人は増加すると予測される。

そこで本稿では、仕事と介護の両立の現状と阻害している要因について検討する。介護を行いながら就業継続している場合と介護により離職した場合の違いは何かについて考えたい。先行研究の多くは、同居での親の介護を対象としている。離れて暮らす場合についても分析を行う。

介護により離職した人は、未婚である人や兄弟数が少ない人が多い。また介護による離職の最も多かった理由は、仕事との両立が困難であったためである。再就職をしたかどうかに影響を与えているのも両立が可能かどうかが多い。

離職した人は親との同居割合が高く、これは介護を契機としての同居も含まれる。また片道 30 分以内に居住している人も多いが、片道 2 時間以上に住んでいる場合もある。

* 〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから〔「仕事と介護の両立に関する実態把握のための調査，2013」（厚生労働省 雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課）〕の個票データの提供を受けた。ここに記して感謝の意を表したい。なお残された誤りは筆者の責任である。